Press-release/E-flashから

『ITUジャーナル』編集部

Press-release

7月30日：
ITUとシンガポールがICT政策と規制フレームワークの訓練プログラで協力
シンガポールがICT開発の経験を共有
ITU and Singapore collaborate on training programme inn ICT Policy and Regulatory frameworks
Singapore shares ICT development experience
（出典：http://www.itu.int/newsroom/press_releases/2007/19.html）

途上国政府でICT政策や規制を担当する上級官吏が、シンガポールで開催されるEnabling Framewarks for ICT Development - The Singapore Experienceと題する5日間にわたる情報通信技術のエグゼキュティブ・プログラムに出席する。

このプログラムは、ITUと共同でInfocomm Development Authority of Singapore（IDA）が提供するもので、アジア太平洋、アフリカ及びアラブ諸国の参加者のためにシンガポールのモデルを検討し分析することで自国におけるICT発展の触媒作用となる機会を提供するものである。参加国はブータン、ブルネイ、ケニア、キリバス、モルディブ、モンゴル、ネパール、サウジアラビア、タイ、アラブ首長国連邦及びベトナム。

このプログラムは、複数の事業者やネットワークの環境下で、公平で有効な、そして持続可能な競争を行う途上国のICTフレームワークの開発を促進するICT・テレコムの上級官吏のためのトレーニング・プログラを供給するという、ITUとIDAの間で2007年6月に交わされた合意に従うものである。

このトレーニング・プログラムは、アジア太平洋地域テレコム/ICT政策と規制の協力に関するITU地域計画を実施するためにとられた行動の一つであり、この計画は2006年にカタールのドーハで開催された第4回世界電気通信開発会議（WTDC）で採択されたものである。

・テレコム・セクターの自由化
Liberalizing the telecom sector

参加者は、このプログラムを通じてIDAの専門家、ITUやICT産業の著名な講師により披露される経験を対話形式で学ぶことになる。また、完全自由化し複数の事業者が存在する電気通信分野でのICT政策の策定や規制についてのシンガポールの経験を学ぶものである。

この5日間のプログラムは、今回がシリーズの1回目で、シンガポールのe-Government Leadership Centreで行われる。プログラムは、今後3年間にわたり、少なくとも毎年30人の参加者を訓練することを目指している。

「このトレーニング・プログラム実行を通じITUの協力要請にこたえているIDAに我々は感謝している」「シンガポールは、他の規制機関が共有できる経験を有する世界で最良の規制モデルの一つである。 シンガポールは、手本として開発途上国に適切で、数多くの政策と規制に関する問題にうまく対処している」とITUのSami Al Basheer Al Morshid電気通信開発局長は述べている。

IDAの Deputy Chief Executive で Director General（Telecom）のMr. Leong Keng Thaiは、「シンガポールは25年前に自国のICT開発に着手し、そのICTの開発は今日のシンガポールのビジネス、文化や高度なインフラが一つになるように貢献してきた」「経済・社会の発展のために、ICTを制御する際に、途上国と彼らの努力を容易にするようなシンガポールの経験を共有させてくれるITUとの共同作業に我々は本当に喜んでいる。我々はそのようなセッションがたくさん実施されることを楽しみにいる」と述べている。

参加者の滞在中、彼らは、Wireless@SGのような最近のシンガポールのICTイニシアチブに関する直接の経験に触れることとなろう。

Wireless@SGは、すべての公共の場所にまで広帯域アクセスを広げることを目的とするシンガポール政府のワイヤレス・ブロードバンド・プログラムである。 2006年12月の運用開始以来、Wireless@SGネットワークは、シンガポール島で

3,400箇所のホットスポットと428,000人の加入者を擁するに至った。それは、シンガポールが建設中の次世代インフォコム・インフラの一部であり、2012年までに完成が見込まれており、超高速有線ネットワークを構成することとなろう。

E-flash

ITU-T E-flash No.32
（出展：http://www.itu.int/ITU-T/e-flash/index.html）

・「NGNの革新」
Call for Papers：Innovations in NGN

ITU-Tは、「NGNの革新」というイベントの開催を発表した。このイベントは、2008年5月12日から13日まで、ジュネーブにおいてIEEEとの共催で開催されるもので、学術関係者とICTの標準化の専門家との交流を促進することを目的としている。

（本号トピックス「ITU-Tカレイドスコープ～論文募集～」（4～6頁）を参照のこと。）

・サイバーセキュリティ標準開発のための新しいオンラインツール
New online tool charts cybersecurity standards development

ITUは、ICTセキュリティ標準作業の状況を把握するためのオンラインツールを開発した。

これにより、ICTセキュリティベンダー、サービスプロバイダ、開発者、研究者、その他の人たちが、一つの共通のユーザーインターフェースのセキュリティ標準を簡単に入手できるようになる。

・ITR見直しのための専門家グループ設立
ITU-T Expert Group to examine International Telecommunication Regulations

ITU-Tは、ITR（International Telecommunication Regulations）の見直しをする専門家グループを設立した。見直しの結果は、2012年に開催されるWCIT（World Conference on International Telecommunication）に提出されることとなっている。

・7月、ホームネットワークに進捗
Home networking progress in June

2007年7月に開催されたSG-15会合において、電話線やデータケーブル、同軸ケーブル、電源線などの電線を利用したホームネットワーキング送受信装置に関する一つの国際標準を開発するための新勧告案について審議した。

・マルチメディアに23の新勧告
Multimedia group meets, 23 new standards

マルチメディアを研究しているITU-T SG-16会合が6月、ジュネーブで開催され、20を超える勧告が承認の最終手続きにかけられた。特に、RFID関連事項が注目され、大きな進展があった。ITUによると、この会合には、記録的な数の参加者と寄与文書の提出があったとのことである。

・新課題「第3世代マルチメディアシステム」始動
Third generation multimedia system work accelerates

新課題「第3世代マルチメディアシステムに関する研究」が次回のSG-16会合での正式承認を待っている。この課題は、現在の「第2世代マルチメディアシステム」の次の世代を目指すもので、現行のH.323と置き替わることになる。

・新課題「IPTVのためのマルチメディア・アプリケーション・プラットフォームとエンド・システム」
Question on Multimedia application platforms and end systems for IPTV

新課題「IPTVのためのマルチメディア・アプリケーション・プラットフォームとエンド・システム」が次回SG16での正式承認を待っている。専門家は、ビデオ配信やIPTVなどのマルチメディアサービスへの関心の高まりが見られるが、インターオペラビリティーの標準化、特に、マルチメディア・アプリケーション・レイヤーの標準化が必要であると述べている。

・ギガビットの容量に向けたG-PON
Future proof G-PON

2007年6月のSG-15会合において、将来のギガビットの容量に向けたパッシブ・オプティカル・ネットワーク（G-PON）の勧告がコンセントされた。

・DWDMの配置距離を延長
Standard extends DWDM distance

ITU-T SG-15の新しい勧告では、マルチベンダーDWDMシステムを配置する間隔を従来の80kmから400km～500kmに延ばすことが可能となる。

・光ファイバケーブルの性能向上
Popular fibre spec upgraded

現在、広く使われている光ファイバケーブルの性能を向上することにより、500m以内のFTTHアプリケーションにおけるギガビット・イーサネットの配備を簡便にすることが可能となる。